

会報

やまばと

(第63号)

発行
社会福祉法人 浄泉会
やまばと学園
秦野市渋沢2620-2
TEL 0463 (87) 1188

発行者 西田精吾
編集責任者 西田精吾

印刷(有)タイム21

振り返る

やまばと学園

副施設長 横山 和紀

今私たちを取り巻く環境に様々な予測を超えた事が起こっています。その度に社会の関心も高まり、様々な緊急対策が打ち出され、見直しを徹底し改善し、繰り返しなために施設として利用者の安心・安全を守るための最大限の対応を進めています。自然災害でも事故でも常に私たちの身の回りに潜む脅威であり日々予防策や訓練を徹底し「備える」ことが最大の防壁

であることを教訓として施設内でも周知機会を設け、努力をしている所です。私たちは利用者様ひとりひとりの生活を守るために常に迅速な情報収集、正しい知識そして正しい心の在り方が問われます。やまばと学園では新採用時の研修、日々の申し送りまた会議開始前に「やまばと学園信条」の唱和をし、お互いに姿勢を確認し合っており、それが利用者様の伝えたいことをくまなく察して支援にあたる事が出来るように取り組んでいます。仕事のミスは漫然、油断、知識不足等が組み合わさって生じることが少なくない中で職員全員が自分

の行動に対して常に緊張感を張りつめて努力しているところです。

一方で疲労困憊やストレスなどで離職者が多いのもこれからの福祉を支えていく上での課題であります。当園では職員ひとりひとりに向き合えるようにチャレンジシートや上司面接等で距離感を少しでも解消し、気軽に相談が出来るような環境作りに努め、ストレスチェック対応も実施して支援者を守るための対策を行っているところではありますが、最終的には自分の心が決めることであります。私自身この仕事に携わらせていただく上で何度も立ち止まってしまったことも少なくありません。その時に思い出す言葉があり挫折そうなる自分を何度も奮い立たせて今日にいたります。

「二度とない人生だから」

二度とない人生だから

一輪の花にも

無限の愛を

そそいでいこう

一羽の鳥の声にも

無心の耳を

かたむけていこう

二度とない人生だから

まず一番身近な者たちに

できるだけのことをしよう

貧しいけれど

こころ豊かに接していこう

坂村真民さんの詩の一部ですが、やまばと学園の創始者である岡部忠行前理事長が幾度となく口にされていた言葉です。利用者支援において求められることはたくさんあるけれど、まず今自分出来る精一杯のことをする、そして継続することが大切であることを支えにしながら、自分の使命感をしっかりと保ち努力してまいりますので今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



入所バス旅行
入所支援課

稲葉 文彦

9月2日の金曜日、秋のバス旅行で箱根にあります『ホテルおからだ』に行ってきました。去年までは、バイキングメニューで食事を楽しんでおりましたが、今年はセツトメニューで食事を美味しくいただきました。

少々、ボーリウムは少ない様に感じましたが、「セツトメニューも良いね。」と言う声も聞かれ良かったように感じております。

帰りは、鈴なり市場で休憩を兼ねたお買いものタイム!!、各自で有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。

利用者の方々は、バスの乗車を楽しまれる方、食事を楽しまれる方、買い物を楽しまれる方とそれぞれ楽しみを満喫できたと思います。

行事担当として至らぬ点も多々あったと思いますが、皆様のご協力もあり、大きな事故なく無事終える事ができました。

参加していただき、ご協力ありがとうございました。



通所バス旅行

通所支援課 課長 工藤 淳

『水族館へ行きたい!!』という利用者の声を叶えるために通所のバス旅行は富士屋ホテル&箱根園水族館へ出掛けました。間もなく富士屋ホテルという所で大渋滞の発生というトラブルがありました。が昼食会場(バイキング)では利用者の方々が好きな食事を選び、思う存分食べる事が出来ました。

箱根園水族館では、沢山の魚の群れに大感激し大きな声で表現される方、真剣に水槽の魚を見つめている方、早くお買い物をしたくてソワソワされている方、と様々でした。

買い物タイムでは文房具やぬいぐるみなどご自分で選んだものを購入し、その後、おやつは：ソフトクリーム・缶コーヒー・ポテトなど利用者のそれぞれの好みのおやつを購入され、芦ノ湖の畔で箱根の雰囲気を楽しむながら楽しんでました。

今回、初の通所センター単独のバス旅行でしたが利用者の方々、疲れも見られながらも笑顔が多かったのが印象的でした。

次回はどこに行きましょう?

新看護師から

看護師 近藤 敏彦

浄泉会に新たな看護師が入職し、看護師2名体制となりました。

はじめまして。8月1日より勤務させて頂いております、近藤敏彦と申します。よろしくお願ひします。

私は精神科病院、総合病院の勤務を経て現在の障がい福祉施設へ就きました。今まで経験のない環境で緊張している毎日ですが、日々指導して下さる医務の方々を始め、はじめに一生懸命利用者様と接している支援員方の刺激を受け新鮮な毎日を過ごさせて頂いています。

不慣れではありますが、ご迷惑にならないよう日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

また、何か気になる事やご質問などあればお答えできる範囲で対応致しますので気軽に声掛けいただけましたらと思います。

これからもどうぞよろしくお願ひ致します。



美味しいお蕎麦

昨年に続き、8月8日に秦野市渋沢に店舗がある『手打ちそばくりはら』の方々がそば打ちの披露で来園してくださいました。

利用者の方々は昨年以上に見学者も増え、興味津々に見学をされました。どうしても気になってしまいました。自分の方で：。という方が気持ちを抑えられず行動に出てしまうというハプニングもありましたが、

昼食には事前に用意して下さったかき揚げが入った、打ちたてのおそばを用意してくださいました。

利用者・職員共々、美味しくいただきました。利用者の方からは今度はお店に行つて食べたいね。

という声も聞かれました。本当に有り難うございました。



美味しいお蕎麦ありがとうございます!!

救命講習

通所支援課 鈴木 滋

八月三十日、やまばと学園では第3回となる救命講習を、実施致しました。

救命講習とは、傷病者を発見して救急車を要請し、到着までの全国平均で8分間、何を行うか、主に心肺蘇生法―AEDの使用、心臓マッサージの実施、人口呼吸法など。その他食べ物がのどに詰まった人への対処、出血している人への止血法などの一時救命処置を学ぶ講習です。

今までは、保健福祉センターで消防署の職員の方の講習会を受けてきましたが、昨年度、学園職員が救命講習を自ら開催できる応急手当普及員講習を受講し、学園内でより手軽な形で講習会を開催できるようにになりました。

学園内の利用者様の場面場面を想定して、より実践的な救命講習が実施できるようになったと思います。参加職員も、例えば、万一〇〇さんが食事中に喉を詰まらせた場合は、〇〇さんが発作を起こした場合は等、支援をイメージしながら真剣に取り組めていました。

感染症シーズン

衛生管理委員会

間もなく本格的な冬の到来となります。このシーズンは特に感染症（主にインフルエンザやノロウイルス）に配慮をしなければいけません。昨年は学園内で感染症が拡大してしまいました。その為、今年度は職員一同で感染症拡大を防ぐ意気込みです。衛生管理委員会としても感染症の拡大を防ぐための研修への参加や学園内でも保健福祉事務所の医師・感染管理認定看護師を講師として招き、去る十月三日（月）に全体研修を行いました。

感染症の拡大を防ぐ為の研修で学び実践できることから、やまばと学園でも行ない始めました。例として固形石鹼からハンドソープへの移行。オムツ処理の方法。など環境設備への配慮を行なっています。

もちろん、利用者・職員の健康管理も重点に置き、五感を研ぎ澄まして早期発見をし、感染症拡大防止に取り組みます。



防犯研修

通所支援課 主任 佐藤 恵

八月九日（火）の午後より、秦野警察署生活安全課の警察官と武道の先生等四名来園され防犯研修を行いました。

ビデオ上映にて、不審者に対する対応ポイントや、注意すべき行動、相手に応じての受け答えのポイント等を学び、実際の訓練を行いました。玄関のある二階事務室前に不審者侵入を想定した訓練です。訓練は不審者を刺激しないよう外に誘導し、暗号を使った館内放送で不審者の侵入を知らせ、放送を聞いた別の職員が一一〇番通報する手順でした。

不審者役の警察官の迫力、強引さ、威嚇に圧倒され頭の中が真っ白になり、学んだ対応・応対ができませんでした。不審者の対応の怖さと迅速な行動に移る難しさを痛感しました。想定できないことが実際起きているこの時代、利用者様の身の安全をしっかりと守れるよう訓練を重ね、ご家族の皆様、利用者様に、安心して過ごせるやまばと学園でありたいと思います。





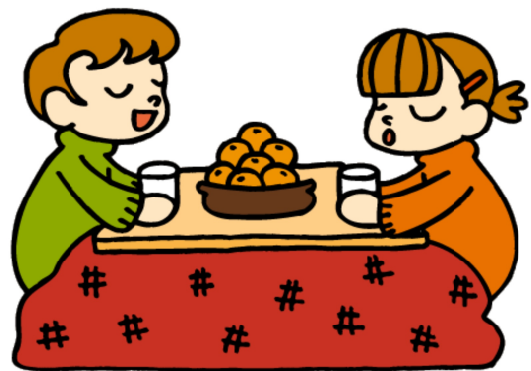
やまばと学園

ホームページ

<http://www.kanagawa-id.org/yamabato/>

メールアドレス

yamabato@galaxy.ocn.ne.jp



編集後記

この時期は夕暮れから宵闇にかけて鹿のなく悲しそうな声がよく聞こえてきます。今は奥山でなく里山で鹿が出没し、又猪が出没し農作物を食い荒らします。例年やまばと学園「秋祭り」では、峠地区の皆様が丹精されて育てていた作物を自治会の皆様からこの秋祭りにご参加いただいた地域の皆様に無料で差し上げて喜ばれていましたが、今年は鹿や猪が作物を食い荒らしてお配りする作物が少なく中止になりました。人と野生動物の共生が立ち行く様に出来ない物かと心から思うものです。

さて、平成28年7月26日に津久井やま

ゆり園に於いて痛ましい事件が発生いたしました。私達は利用者の皆様が、この

浄泉会やまばと学園後援会の会員・賛助会員を募集しています

社会福祉法人浄泉会

やまばと学園後援会

- 法人設立の趣旨をより効果的に実現する為に、社会福祉諸活動を支援しようとするものです。
- 障害者の皆様が快適で安心して安全で楽しくアットホームで満足できる生活を送れるよう支援しています。

法人会員	年額1口	20,000円
個人会員	年額1口	10,000円
賛助会員	年額1口	3,000円

会員には会報「やまばと」が郵送されます。

振込みは郵便為替で(手数料は本会負担)
 どこの郵便局でも 00220-5-14491 です
 口座名は 浄泉会やまばと学園後援会
 新しく会員になられる方はご住所を電話等
 でお知らせ頂くようお願い致します

やまばと学園内 後援会係担当
 〒259-1322 神奈川県秦野市渋沢 2620-2
 Tel 0463-87-1188 Fax 0463-87-6876

やまばと学園で快適、安心、安全、楽しくアットホームに健康で満足して暮らして戴くことを理念である「やまばと学園信条」を毎日唱和しながら共に過ごしています。犯人の優生思想に対して言いようのない強い怒りがふつふつと湧き上がります。又、亡くなられた利用者様に対しては底知れぬ悲しみに打たれます。私たちは一日も早くこの事件が解明され、再びこのようなことが起こらぬ社会、障害者も健常者も共生できる社会の到来を心の底から願うものです。

亡くなられた皆様のご冥福を心から祈りさせて頂きますと共に、お怪我をされた皆様の一日も早いご回復を心から祈り申し上げます

(会報担当)